

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101770		
法人名	有限会社 めぐみ		
事業所名	グループホーム のため		
所在地	〒811-1347 福岡県福岡市南区野多目5丁目20番12号		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果確定日	平成27年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

家庭的な雰囲気を大切にし、職員と入居者が一つの家族のようなホームを目指しています。代表が看護師であり、併設された訪問看護ステーションの看護師や24時間往診対応の協力医との連携による利用者の健康管理には力を入れている。また、毎月、職員研修を行い、より入居者が安心して安らかに生活できるようにケア向上に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成27年11月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのため」は東花畑校区の住宅街の中にあり、新規開設ながらも家庭的な一軒家のような外観で、周辺の景観を損なわない形で地域にも良く馴染んでいる。法人の系列で隣接して訪問看護、近隣にも1か所のグループホームが運営されており、外部講師を招いた毎月の全体研修などで情報も共有している。代表が近隣に住み看護師であることと、訪問看護も隣接されていることで医療支援も手厚く、健康状態もよく管理されており、開設当初から入居されてここで100歳を迎えた方もいるなど、全体の平均入居年数も長い。庭先で飼う犬や、猫が入居者の心を和ませ、周囲との関係づくりにも役立ち、開設以来地域との関わりを深めてきた。社協での「まちかどかかりつけ施設」登録や、地域ケア会議なども始まり、今後も地域の中心として活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に法人理念を唱和し、理念の意義を理解、共有している。利用者の安心と尊厳を守り、地域住民の一員としてその人らしい生活が送れるように努めている。	開設当初から、数年前に一度見直しを行い、現在では法人共通の理念として4つの項目を掲げている。毎朝の唱和は4項目を一つずつ担当を代えて行き、全文読み上げている。毎月の研修の中で代表が理念に触れて話すこともあり、毎年事業所目標を定め、今年は理念にもある「ノーマルな居場所を作る」ことをあげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の組長。町内会の定時総会、防災訓練資源回収、夏祭りへの出店などへの参加。町内福祉セミナーの実施。管理者が月に一度町内の夜間パトロールへ参加し、交流をはかっている。	管理者が数年前から組長を務めるようになり、任期交代で現在も担っている。毎年開かれる定期総会にも参加し、町内会活動も、資源回収や清掃など入居者も一緒に参加している。町内の夏祭りは運営から手伝い、今回は救護班としても支援した。地域の要請で今年初めて福祉セミナーを包括との合同で行い、多数参加もあった。日常的にも近隣の住人とあいさつを交わし畑の世話なども手伝ってもらっている。	近隣から借りている畑の世話をきっかけに、交流を広げたり、今年初めて行った福祉セミナーを継続的に発展させることや、認知症サポーター活動など情報発信の取り組みがなされていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと近くの小規模多機能事業所と連携し、町内向けの福祉セミナーの実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近くの小規模多機能型事業所と合同で毎月開催している。家族代表、町内会長、民生委員、地域包括支援センター、福祉事業所などと協議しながら、福祉セミナーの開催や、町内会行事への参加など実施している	会議内での要望で、福祉セミナーの提案があり、実現にもつながった。昨年度から、町内の別事業所との相互参加も始まり情報交換もされるほか、地域代表の参加も多く、地域に関しての話し合いにもつながっている。家族は全員に声かけし、1、2名が参加され、市役所にも案内し参加もあった。議事録も家族全員に配布するようにし、取り組みも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの現状報告や課題、行政担当窓口で電話やメールで相談したり、情報交換やアドバイスをもらう等の連携をしている。	区の福祉課や、新たに開設された地域包括との連携もしており、生活保護の方の担当ケースワーカーとは身寄りのない方に対してのプランに関してなども相談している。介護申請は窓口を訪問して行き、日頃から状況報告もしており、地域包括から空室照会をもらうこともある。今年初めて東花畑校区での地域ケア会議が開かれ、行政からも地域の連携体制は評価されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、職員は拘束が利用者にも与える影響を理解し、身体拘束のないケアを実践している。夜間は防犯のため、施錠するが、日中は施錠せずに、入居者や家族が自由に出入りできるようにしています。	玄関施錠もなく自由に外出できる。数年前に離設があったが、今は鈴などもつけて対応し、その後はなく状態も安定している。拘束廃止宣言も掲げており、毎年独自の内部研修も行って、スピーチロックも含めた理解を進めている。徘徊リスクの高い方がいる時は入居者と地域の方の顔合わせも行って顔見知りになってもらい、万一の際の見守り、通報も依頼している。	内部研修での周知や、拘束をしないケアへの取り組みをしているが、定期的な外部研修の参加も年間計画に落とし込むことで、最新の情報も含めた学習機会がもたれることに期待したい。

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で、職員全体で学んでいる。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、入居時に、パンフレットや資料に基づき、利用者、家族に制度について説明を行い、職員は定期的に学び、必要に応じていつでも支援できる体制を整えている。	入居時には全員に対して制度の説明を行い、パンフレットも渡している。制度に関しては内部研修で周知し、現在も成年後見制度活用の方が1名おり、入居後に家族と協力して支援につなげている。同じ方が入居前に日常生活自立支援事業を使っていたこともあり、事例を通して一般的な理解を進めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、入居者やご家族に対して「契約書」と「重要事項説明書」を声に出して読み上げ、十分な説明を行っています。入居者や家族からの不安や疑問には具体的に答えるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見や要望を取り入れるために、家族の面会時や行事参加、電話等で、利用者の日頃の暮らしぶりや健康状態を報告し、要望を聴きだすように努めている。また、家族が気楽にホームに立ち寄り話しこんで帰る事もあり、家族の心配事や悩みを受け止めることにも努め、家族との信頼関係を築くように努めている。	昨年初めて、家族アンケートを実施し、半数以上回収され、外出の要望、看取りに關しての意見を頂いた。アンケート結果は集計し、事業所内で共有し話し合われた。意見が上がることも少ないが、家族も協力的でミカン狩りに招待してもらったこともあった。毎月「のため通信」を発行しており、写真付きで日頃の報告を行い、全員に個別のお手紙でも状態を伝えている。	アンケート集計、話し合いもなされているので、「のため通信」を使って家族にも結果報告や取り組みの報告に活かされてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を兼ねたカンファレンスや勉強会を開催し、職員全員で、活発な意見や提案が出る会議になっている。出された意見は検討し、出来るだけホームの運営に反映させるように努めている。	毎月、全員参加の職員会議があり、研修に参加した職員からの伝達や、日々の情報を共有するカンファレンスを行っている。意見も積極的に取り入れてチャレンジする姿勢があり、ミカン狩りの実施にもつながった。日頃気づいたことはすぐに管理者や代表に伝えており、パート職員も含め円滑にコミュニケーションがとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の努力や実績、勤務状況について把握するように努め、その都度向上心をもって働けるように声かけをして、評価するように努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、経験や年齢、性別の制限はなく、人物本位で採用している。また、歌や料理、工作、園芸等、職員の得意や不得意に配慮し、職員同士でカバーしあって、伸び伸びと仕事ができるように努めている。希望休などにも柔軟に対応し、働きやすい職場を目指している。	男性は管理者のみで、30～70歳代までの女性が中心となって勤務されている。職員それぞれの事情にも配慮して希望休暇やシフト調整を行い、休憩時間や休憩場所も確保されている。職員も能力や経験を活かして料理や、飾りつけ、レクリエーションなどに取り組み、イベント企画も積極的にアイデアを出し合っている。	

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者から、職員の採用時のオリエンテーション等で、利用者の人権を尊重するための介護サービスの在り方の話しをし、利用者が安全で安心して暮らせるように取り組んでいる。また、朝礼等で理念を唱和する事で、常に利用者の尊厳について考え、人権を尊重した介護サービスを実践している。	法人での内部研修で、権利擁護や虐待防止関連の研修を行っている。認知症管理者研修や実践者研修の中でも人権に関してのカリキュラムを受けており、最近では市の人権センターが行った人権研修にも管理者が参加している。	管理者が人権学習に参加したり、管理者研修などでも人権に関して学習しているが、内部での資料回覧や伝達研修がなされることにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内での合同研修会やホームでの委員会を実施しています。また、外部での研修等の内容は伝達講習をしています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が地域の同業者同士の情報交換会等に参加し、ネットワーク作りに努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に自宅訪問や面談を行い、または、ホームに見学を実施し、ホームの雰囲気味わってもらうようにしています。そこで、本人の困っている事や、不安な事等に耳を傾け、出来る限り本人や家族の希望をきくようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時にご家族の困っていること、不安な事、要望等に耳を傾け、受け止めるようにしています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人や家族の生活環境や身体状態等の情報収集を行い、面談を行い、もっとも必要としている支援を見極めるようにしています。そこで、満床であったり他のサービスが適切だと判断した際は他のサービスを紹介するようにしています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者との間に壁を作らないように努めています。また、入居者との日常生活の中で生活の知恵を教えてもらうことも多くあります。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内の夏祭りやホームでの敬老会や誕生日会等への参加を呼びかけ、可能であれば病院受診への同行もお願いし、共に本人を支えていく関係を築くようにしています。		

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者一人ひとりのアセスメントをもとに、馴染みの人や場所などの情報収集をし、職員全員で把握するように努めています。馴染みの場所へのドライブや馴染みの人との年賀状のやりとり等を通して、利用者が長年築いてきた人や場所との関係継続の支援をしている。	日頃も馴染みのスーパーでの買い物や園芸好きな方を園芸村や花屋に連れて行っており、遠方でも生まれ故郷の他県に個別ケアで支援することもあった。以前楽しんでいたというミカン狩りも家族の協力で実現し、一時帰宅や外泊をする方もいる。身寄りの少ない方には関係を聞いて連れ出すこともあり、近くの美容室など、新たな馴染みの関係を作る支援もしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するように努め、プライバシーを保ちながら部屋に閉じこもったり孤独にならないように声かけを行っています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が他施設や病院等へ転居された場合でも、面会へ行ったりし、必要に応じては本人や家族の相談をきける体制をとれるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族から、思いや意向を聴き取り、日常生活の中で、会話や独り言、行動、表情等から、利用者の意向の把握に努めています。意向表出が困難になった場合には、過去の記録を見直したり、家族から情報を得て、利用者本位に検討している。	アセスメントにセンター方式の活用も検討したが、今の様式に落ち着き、最近ではマイナーチェンジも行った。管理者か計画作成担当者が主にに関わり、家族からの聞き取りなどを行っている。年度初めに見直しも行い、カンファレンスで現場の意見も参照して情報を補完している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族(キーパーソン)の方から、本人のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を把握するように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等については1人ひとり介護日誌に記録し、全職員で把握するように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や面会時に家族(面会がない方には電話)にて希望や意向を聴き取り、主治医や関係者と相談し、毎月のカンファレンスのなかで職員の意見や気づきをだしあって担当者会議を実施し、基本6ヶ月毎に見直しをおこなっている。利用者の状態の変化により、期間を短縮しての計画の見直しを実施するように努めている。	全員分のカンファレンスを毎月行い、ケアプランではサービス内容を詳細に記載し、事業所内での情報共有とケアの統一化を図っている。毎月のモニタリングを元にケアプランの見直しは半年で行い、その際に担当者会議を開いている。主にケアマネが担当し、医師からは往診時の情報などでプランに活かしている。	ケアプラン内容をより一層、全職員間で周知していくために、プラン目標の日々の実施チェックや、詳細のモニタリングなどの取り組みが検討されることにも期待したい。

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入しています。その記録については朝礼等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出等や、本人の希望による買い物等の外出等の支援や、家族との交流をはかる敬老会等の行事を企画し実践しています。また、通院援助や隔週の往診、ホームの周りで造園や野菜栽培等を行っています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握するように努め、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を優先して、入居前のかかりつけ医の継続も可能にし、ホーム提携医と選択してもらうようにしている。代表が看護師であり、訪問看護、介護職員、24時間対応可能な提携医との連携の下、利用者が適切な医療を受ける事が出来る体制を整えている。	従来のかかりつけ医も継続できるが、説明して了承のうえで提携医を希望される方が多い。提携医は月2回の往診があり、他科受診は基本は家族に支援してもらう。情報は随時共有し、看護職員のほか、隣接した系列の訪問看護や、代表も看護師のため、健康管理や突発の対応も手厚い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ病院の看護師からの情報を引き継ぎ、当ホームの看護師により適切な受診や看護を受けられるように支援しています。また、日頃から介護士も気づいた事はすぐに看護師に伝え、指示を仰いでいます。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には、着替え等の洗濯物の交換はホームで行っています。また、病院を訪問した際には病院関係者より情報をいただき、出来る限り早期退院ができるように支援しています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を作成し、利用者、家族に説明し、同意書を得ている。利用者の重度化供ない、家族の希望を聞きながら、関係者で話し合い、全員で方針を共有し、出来るだけ希望に沿えるよう取り組んでいる。	これまでに3名の看取りに対応したことがあり、入居時に方針の説明を行い、重篤化の際は医師の立会いのもと改めて同意を頂き、看取りプランも作成して対応している。提携医も24時間対応で、系列の訪問看護も隣接して迅速な対応が出来る。ターミナルケアに入った時は研修も行い、関係機関ともこまめに連携をとっている。	

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルにそって話し合いを行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年に2回昼夜を想定した避難訓練を実施し、2階の利用者の救出方法について具体的に消防署と確認を行っている。また、町内の防災委員会にも参加させていただき、ホームも支援体制の中に組みこんでもらっている。	校区内の防災訓練には毎年、入居者も一緒に参加しており、事業所の訓練は夜間想定で消防署にも立ち会ってもらっている。近隣の住民にも支援を依頼し、訓練に参加してもらったこともあった。毎年ある町内の防災訓練にも参加し、備蓄物として、水や食料品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体での接遇研修の中で、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に向けての勉強をしている。また、個人情報の保管場所や職員の守秘義務の徹底も図っている。	外部講師に来てもらって、法人内で合同の内部研修が毎月あり、その中で接遇に関しても取り上げている。さん付けで名前を読んだり、目線を合わせたり、対等な関係で接するなど基本に忠実なケアを心掛けている。羞恥心にも配慮し、同性介助にすることもあり、写真利用に関しては同意を得たものにだけ留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では本人が思いや希望を表わしやすい雰囲気作りをしています。また、自己決定できるように適度な距離をおきながら、本人の思いを聞くように努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中には大まかな流れはありますが、その日の入居者のそれぞれの状態や希望を聞きながら、その人のペースにあった一日がすごされるように支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人が希望されるお店等がありませんので、職員が担当し、本人やご家族も満足されています。また、冠婚葬祭や歳時の前に希望のある方に関しては美容室等への付き添いを行っています。服装に関しては、TPOに応じて、本人の希望を聞きながら決めていきます。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは一週間分を入居者の希望や好みと取り入れながら、バランスを考えておおまかな献立をたてています。その日その日に、利用者の意見や希望を聞きながら臨機応変にメニューの変更が出来るようにしています。また、食事の準備や片付け等は、一人ひとりの能力に合わせてできることは職員と一緒にしています。	メニューは一週間単位で作成し、栄養バランスや好みなどに配慮し、代表が調理することも多い。旬の物を活かして提供し、その日の希望で麺類に変えるなど柔軟に対応している。下ごしらえなど出来ることもしてもらい、調査時も出来る人は精力的に手伝っており、職員も一緒に同じものを食事していた。誕生日や季節の行事食なども提供し、個別で外食する方もいる。	

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの身体状況(既往歴・身長・体重)や、その日の状態を把握し、その人の状態を把握し、その人にあった栄養摂取や水分確保の支援を行っています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本はトイレでの排泄を目指し、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、日中はその人に合わせてのトイレ誘導を行っている。また、失禁パンツを購入したり、利用者一人ひとりに合わせた色々な方法により、オムツの使用量を減らす取り組みもしている。	1日1枚で全員分、24時間の排泄チェック表で管理するほかに、排便のみ1か月でのチェック用もあり、両方で記録している。誘導時間も管理して、パット利用の方の使用軽減につながったこともある。腹圧を軽減する下着を活用したり、入居者それぞれの状態に応じた提案も行っている。チェック表によって便秘の管理も漏れの無いように取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の生活の中で、散歩や家事手伝い・体操により身体を動かす事や、食事(食物繊維・水分)量等に注意をしています。また、排泄チェック表での排便確認を行い、主治医との相談のうえ、服薬にて排便コントロールを行っています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には1日おきであるが、毎日入る事も可能である。利用者のその日の健康状態、気分に合わせて、日時をずらしたり、足湯にしたり、入浴剤の使用など、利用者一人ひとりの入浴が楽しい時間になるように努めている。	基本は週3で昼から夕方くらいの入浴だが、希望すれば毎日でも提供し、拒まれた場合にも無理強いせずに、最低でも週1回は入ってもらっている。入浴剤をいれたり、季節の行事浴にすることもあり、長湯をする方もいる。皮膚観察などが必要な時には看護師が入浴介助をすることもある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や状態にあわせて、休憩時間や、就寝・起床時間を考慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが使用している薬については、主治医や薬局の薬剤師から副作用、用法や用量について説明を受けています。また、1人ひとりの薬の説明書を個人記録に綴り、職員全体で共有できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の能力や出来る範囲にあわせて、生活歴や力を活かした調理補助や洗濯物たたみや掃除等をしてもらい、毎日張り合いのある生活をおくれるように支援しています。		

H27自己・外部評価(グループホームのため)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩や季節の花見、ピクニック等、残存能力に合わせ、少しでも戸外で過ごし、季節を感じてもらえるようにしています。また、ホーム前でバーベキューをしたり、町内の夏祭りや花見等、家族に声をかけながら、屋外での楽しみごとの支援をしています。	季節の外出行事や、近くへの花見、地域の夏祭り、初詣などに行っており、平均して2ヶ月に1回程度外出レクを行っている。日頃は近隣の散歩や、家族との外出なども行い、個別でも外食に連れていくこともある。意欲低下された方には無理強いはいしないが、車いすの方も同じように外出されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、小額で本人の希望があれば、本人が所持できるようにしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	24時間電話の利用は可能です。また、年賀状のやりとりの支援をしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング・ウッドデッキや庭先には季節の花を植えたり、飾り、台所からはまな板で刻む音や調理の匂いが漂うような家庭的な雰囲気作りにも努めています。また、リビングには月毎の歌や絵を掲示し、季節感が失われないように配慮しています。	施設然としない、民家のような外観と内装で、入居者も自分の家のように落ち着いて過ごしている。庭先での日光浴や、犬や猫との触れ合いも気軽にできる。リビングに面したカウンターキッチンからはいつも中の様子が望め、入居者もソファやダイニングテーブルなどで過ごしている。雑然とした感じではあるが、絵なども飾られ、かえて家庭的な雰囲気に一役買っている。2Fにはチェアリフトで移動することも可能で、安全にも配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが入居者同士の語らいの場になっており、各居室へは各自自由に行き来できるようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は全て持ち込み制で、本人が使用していた使い慣れたものを自由に持ち込んでもらい、本人や家族の方と相談しながら居心地よく過ごせるようにしています。	居室の入り口には入居者ごとの表札がかけられ、温かみのある雰囲気を醸し出している。床は明るめのフローリングで、介護ベッドが準備されるが、布団で休む方もいる。日当たりや風通しもよく、清潔にされている。見守りや必要な方はリビングに置かれたベッドで休むこともある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや机等の配置を工夫して、出来る限り自立した生活が送れるようにしています。		